

月二十九日死去、七十七歳。

(旭川荘厚生専門学院)

34 練堀町時代の佐藤尚中

大 滝 紀 雄

練堀町時代すなわち明治六年より八年に至る期間、佐藤尚中が私立の病院を開き、患者の診療に従事したことは、既定の事実である。しかしこの期間尚中が引き続いて学生の医学講義を実施したことは、文献上明らかでなかった。ところが、尚中の弟子たちによって、私学済衆舎開学願いが明治六年十一月東京府に提出されている事実や、尚中自身によるこの期間に出された卒業印書が発見されたため、練堀町時代、尚中による医学講義が実施されていたことはまぎれもないと思われるようになった。

東京都公文書館に所蔵されている書類に、「済衆舎開学願書」がある。提出者は第五大区小二ノ区浅草西鳥越町甲二番地松平忠敬邸内寄留 山口県営下平民 渡邊泰造で、

宛名は 東京府知事大久保一翁殿、日付は明治六年十一月となつている。教員履歴を見ると、渡辺のほか、阿部文安、千葉常雄、千葉昌胤、泰真吾はいずれも明治五年以降尚中の弟子であつた。この医学校は修業年限二年半で、二十歳以上の男子に限り入学させた。

学科は医学に限られ、教科は次の通り五期に分類されている。

- 第一期 数学 理学 化学
- 第二期 解剖学 生理学 病理学
- 第三期 薬剤学 内科学 外科学
- 第四期 眼科学 繙帯学 産科学
- 第五期 病床実験

「但し病床実験は府下外神田練堀町順天堂においてす」の但し書きがついている。尚中の文字はどこにも見当たらないが、彼が講義ないし指導したことは間違いないと思われる。

比較的最近、島根県の牧野辰雄医師から、順天堂大学医学部医学研究室に次のような連絡があつた。すなわち牧野氏はその祖父、牧野重朝の卒業印書(卒業証書)四通を所

持しているが、明治六年十二月から八年三月までの佐藤尚中署名入りのものである。なるほど印鑑を見ても紛れもなく尚中のものに違いない。

窮理、舎蜜が明治六年十二月。解剖、生理が明治七年五月。薬性、病理が明治七年九月。内科、外科が明治八年三月と記されている。まさに練堀町時代に相当する。

これらを基礎にして検討を加えたい。

(横浜市)